



# 学校だより

2月号

平成30年2月1日  
横浜市立善部小学校  
校長 小澤 紀子

## 「こころの色」を見つけて伸ばす

副校長 宇田川 聡

年が明け、早一ヶ月が過ぎ、今年の冬はかなり厳しい寒さとなっています。先週降った雪もまだ残っている所もあり、登校してくる子ども達も手袋をして寒そうに歩いている姿が見られます。学校では、明るく元気な声が聞こえてきていますが、インフルエンザも流行しており、体調には気を付け、手洗い、うがい等予防対策も指導しているところです。保護者、地域の皆様も体調を崩さぬようお気を付けください。

昨日までは1月ということで、廊下を歩くと、どのクラスの廊下にも書初めが掲示されています。1年生は「お正月」2年生は「新しい年」3年生は「生きる力」4年生は「元気な子」5年生は「美しい空」6年生は「希望の朝」という文字を書いています。どれも一生懸命書いた力作で、個性があり、見ていると鉛筆や筆の運び一つ一つが見えてきて、1年の初めにどんな気持ちを込めてこの字を書いたのだろうかと思っ鑑賞していました。

先日、出張先で国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）名誉教授の的川泰宣（まのがわやすのり）さんの講演を聞く機会がありました。的川泰宣さんは、数々の科学衛生の誕生に活躍され、宇宙探索機「はやぶさ」の打ち上げ飛行プロジェクトにも携わった方で、日本の宇宙活動の「語り部」であり、「宇宙教育の父」とも呼ばれている方だそうです。その方の講演の中で、的川さんが小さかった頃の話をして、「小学生の頃に海の色は青いのに、バケツに汲んでみると透明なのは何だろうか。」と思ったそうです。そして兄と共に白い板を海に沈めて沈んでいくうちに次第に白い板が青くなり、海の色と同化したとのことです。また、夜空の星を見て、「何光年もの彼方にある星の光が地球上に届くまでに宇宙全体（あるいは宇宙の歴史）を見ながらやって来ている。数十億光年の彼方まで、どこまでも分け入りたい。」とも思うような探究心のある子だったとも言っていました。

身の周りに分からないことがたくさんあり、それに対して疑問を抱き、仮説を立て、実践してみることの大事さを教えていただきました。「こころの色」と的川さんは言っていましたが、このような子ども達の「センス」は小さい頃だと伸ばすことができ、何に対しても大きく踏み出す力、壁を越えていく力になっていくとのことでした。

本校では、算数科を重点研究として2年間行ってきていますが、子ども達が課題に対して自分なりの考えを持ち、説明する力が着実に身に付いてきています。これからも分からないことをそのままにせず、考え、調べ、実践して自力解決ができる子を支援し、育てていこうと思っております。

先日1年生が地域の方々に昔遊びを教えていただきましてありがとうございました。その後、低学年では生活科で自分なりに遊び道具を工夫して作ってみたり、遊び方をいろいろ考えて試してみたりしていました。3年生も地域の方々に教わりながら昔体験を行い、現在のような便利なものがない頃だからこそ工夫して生活していた貴重な体験ができたこと感謝しております。これからも様々な体験や生活、自然の中からの疑問や課題をもって、楽しみながら学習していくことを大事にしていきたいと思えます。

平昌五輪まであと8日となりました。センスを磨いた選手達をぜひ応援したいと思います。

平成29年がスタートし、早いもので、一ヶ月が過ぎました。朝晩はめっきり寒さも増し本格的な冬の到来を実感する日々が続いています。先日、寒い日の朝登校してきた児童が厚さ1センチほどある氷を大事そうに手で抱えていたのには驚きました。これからも息が白くなるような寒い日があるかと思いますが、子ども達も寒さに負けず元気よく過ごしてほしいと思っております。



1月19日には生活科で1年生が昔遊びの学習を行いました。その際に、地域の方が37名教えにきていただきました。昔から親しまれている遊びにはどんな遊びがあるのか事前に知らされていたもの子ども達は楽しみにしており、当日は地域の方々に分かりやすく丁寧に教えていただき、お蔭様で笑顔がたくさん見られました。寒い中、子ども達のために教えにきていただき、感謝申し上げます。また、「教えた後に、子ども達がありがとうございました。ときちんと言えてよかったです。」という言葉もいただき、早速、担任からも子ども達に伝え、朝会でも紹介させていただきました。

1月26日には体育集会で全校児童が校庭で縄跳びを行いました。掛け声に合わせてどの学年も跳んでいる様子は、寒い中でも体をしっかり動かすと言った面でもとてもよいことだと思います。



そこで、先ほどの昔遊びを思い返してみると、実に様々な動きがあるなど感じました。めんこは腕を力強く振り下ろす、こま回しは腕を前後に勢いよく動かす、竹馬は竹を握って手足をバランスよく上下に動かしながら前に進むといった動きがあり、はねつきは羽を打ち上げるために素早く動かなくてはなりません。他にもけん玉、竹とんぼ、百人一首、あやとり、お手玉、あはじき、ビュンビュンゴマは動きは大きくはないものの、力加減を工夫しながら手先、指先を巧みに動かしていることに気付き、実に体の様々な部位を動かしていることに興味しました。

日本人達は手先が器用であると言われるのは、箸を使って食事をしているからだということを聞いたことがあります。手先・指先を微妙に動かして遊ぶといったことを小さいころから行っていたからでもあるのではないかと思います。遊びを通して色々な動きや微妙な力加減、どうやったらうまくいくか工夫する能力、空間認識や瞬発力等が知らず知らずに高まっていくのだと感じました。

今の子ども達はゲームで遊ぶことが多くなってきていますが、バーチャルの世界で楽しむことも今の時代には合っているのだと思いますが、昔遊びのような実際に体を動かして遊ぶことも大事な面が数多くあるのではないかと改めて思いました。これからも、地域の方々には引き続き昔遊びを傳承していただきたいと思うと共に、地域の方々に学校活動が支えていただいていることを実感しております。今後も子ども達の健全な育成に向けてご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

4月1日付けで、前副校長の本田 明に代わり、本校に着任いたしました。善部小学校に着任する以前は、保土ヶ谷区の帷子小学校におりました。学校周辺には大きな団地がたくさんあり、相鉄線が校庭の向こう側に走っている学校でした。

善部小学校はすぐ近くに新幹線が通っており、鉄道に縁があると感じつつ、どんな子ども達が通っているのか出会いを楽しみにしておりました。

入学式・始業式の前日、新年度になって初めて登校してきた6年生が、入学式や新学期の準備で一生懸命働いている姿を見て、最高学年としての自覚をもって進んで活動しており、頼もしく感じました。

Z S Fには、数多くの保護者の皆様、地域の皆様、学校関係者の方々にお忙しい中、ご来校いただき、温かいご声援とご協力いただきまして心より感謝申し上げます。

Z S Fでは、練習の段階から、1年生から6年生のどの学年も演技や競技、応援や開閉会式の動き等多くのことを、一つ一つ覚え、身につけていく様子を見て、よく頑張っているなど感心していました。もちろん最初のうちはぎこちなく不安げな動きが見受けられ、声も十分出せていない場面もありました。しかし、回を重ねていくうちに、指示や掛け声、曲等に合わせた動きができるようになり、子ども達の表情を見ても次第に自信をもって行動できるようになってきているのを感じました。それと共に1年生から6年生のたてわりスマイル班では、班長を中心に異学年同士が協力し合って、応援練習では、応援団の指示や掛け声に従って大きな声を出したり動いたりする活動が見られるようになり、活気や盛り上がりが出てきました。音楽の時間や各クラスで歌っている応援歌を聞いても、Z S F当日が近づくにつれて、気合のこもった声が校舎内に響いていました。普段は仲良く生活している子ども達ですが、Z S Fでの「勝ちたい」という思いから本気になって競い合うという活動も大切であると感じています。

1・2年生の踊るポンポコリンの曲による可愛らしい踊り、3・4年生のソーラン節の力強い演技、5・6年生の伝統ある「飛翔」の曲でのダイナミックかつ繊細な動きを兼ね備えた芸術ともいえる演技、どれをとっても見事に演じることができ、子ども達も真剣かつ満足気な表情を浮かべていたのが印象的でした。

徒競走では、自分のもてる力を精一杯出し切ってゴールを駆け抜け、スマイル班競技では、ボールを落とさないよう互いに気持ちを集中して一生懸命走って気持ちが一つになっているのを感じました。

このようにZ S Fという行事を通して、子ども達は目標に向かって努力し、やるべき事を理解し、身に付けていくこと、直面した課題に取り組み、力を合わせて乗り越えることにより大きく成長しました。教職員も計画の段階から指導・支援そして準備等真剣に取り組んできました。

本番では、その成果を十分に発揮し、子ども達の成長した姿を皆様に見ていただけたことを大変嬉しく思います。これからも、学校生活や多くの学習活動を通して子ども達一人ひとりが成長していくために教職員が一体となって努めてまいりますので、どうぞご理解ご協力のほどお願いいたします。

